再評価項目調書

再評価実施要件			○ 事業採択後(年) ● 再評価後(10年) ○ その他()									
		事 業 名	田布施川流域下水道事業、田布施町・平生町流域関連公共下水道事業(汚水:田布施川処理区)									
		事 業 場 所	山口県熊毛郡田布施町、平生町									
		事 業 主 体	山口県、田布施町、平生町									
1 事 業 概 要		事業期間	《前回評価 平成 22 年 時》 平成 3 年度 ~ 令和 10 年度 《令和 8 年度》 (西暦 1991 年度 ~ 西暦 2028 年度 《西暦 2026 年度》)									
		総事業費(内用地補償費)	《 43,259 百万円》 既投資額 30,682 百万円 進捗率 71 % (553 百万円) (内用地補償費) (553 百万円) (用地補償費) (100 %)									
		事 業 目 的	田布施川の流域に位置する田布施町及び平生町は、昭和40年代から50年代に商業・工業が活性化すると共に急速に都市化が進み、この地域から排出される汚水により、田布施川並びにその下流に位置する平生湾や瀬戸内海の水質が年々悪化していたことから、早急に水質汚濁を防止し、良好な生活環境を確保することが必要となった。このため、田布施町及び平生町の市街地の生活排水を下水道により適正に処理することにより、衛生的で快適な生活環境を確保するとともに、河川、海域の水質環境の維持改善を行うものである。									
		事業内容	〇田布施川処理区 処理区域面積:1,586,5na 県:処理場 1 箇所 計画処理人口:20,400人 幹線管渠延長 6.7km 計画汚水量 :9,180㎡/日 町:管渠整備整備 1,586,5ha									
		事 業 効 果	○処理区域内において、衛生的で快適な生活環境が確保される。 ○処理区域内の河川やその下流に位置する瀬戸内海の水質環境の維持改善に寄与する。 目標:田布施川、平生湾及び周防灘(響灘~平生・上関水域)の水質環境基準の達成									
2再評価の視点	(1)社会経済情勢の変化	社会経済情勢 の変化に伴う 必要性の変化	下水道の事業運営については、人口減少に伴う使用料収入の減少や、施設の老朽化に伴う改築・更新需要の増大などその経営環境は厳しさを増しており、下水道経営を持続的かつ安定的に行うため、将来の人口減少等を踏まえ、経済性、整備時期を考慮した下水道整備区域への見直しと未整備区域の早期整備が求められている。こうした中、両町の行政人口の減少に伴い、計画処理人口及び計画汚水量を見直しているが、現状の田布施川処理区における下水道普及率は、平成30年度末で53.8%と、県内平均(66.2%)及び全国平均(79.3%)を大きく下回っており、未整備区域の整備の必要性は依然として高い。 〈前回評価〉 〈今回評価〉 〈今回評価〉 ○計画処理人口 21,600 人(R8年度)→ 20,400 人(R10年度) 中項目 で									
		関係市町及び 地元の意向	各町の総合計画において、主な施策として汚水処理の推進などを位置付けて、計画的に下水道整備を進めているところであり、未整備区域の住民からの早期整備に対する要望は強い。									

			ı					(HH)	· 455m)		
				区分	主な項目	前 回 (基準年: H22)	(単位 今回(再評価・再々評価) (基準年: R2)		位:百万円) 備考		大項目 評 価
						全体事業	全体事業	残事業	<u> </u>		01 100
	(2)事業の投資効果				①生活環境の改善便益	75,886	94,911	46,538			
				便益	②居住環境の改善便益	24,426	39,218	20,378			
				(B)	③公共用水域の水質保全便益	10,393	12,837	7,391			
		費用対効果 分析等			④その他の便益	236	0	0			
					総便益	110,941	146,966	74,306			
					①事業費	81,310	112,770	28,828			
					②維持管理費	9,911	14,850	5,700			
					③その他 ************************************	0	0	0 34,528			(A)
					総費用 費用便益比(B/C)	91,221	127,620 1.2	34,5 <u>28</u> 2.2			
								·		1	В
			r#m		更益(B)・費用(C)は、算出した	各年次の値を割引率を	用いく現任価値に換昇	した合計額			·
			【費用対効果分析手法】 ○根拠マニュアル								
			前回:下水道事業における費用効果分析マニュアル(案)(H18.11)社団法人日本下水道協会 今回:下水道事業における費用効果分析マニュアル(H28.12)国土交通省水管理・国土保全局								
				ᆸ.	下小位争来にのける。	マロ が 木刀 が マー	-1 / /V(I IZO, I	乙国工义四百户	小日庄,	下水道部	
					の説明						
					環境の改善便益:悪な			D解消、景観の	向上など	ごの効果	
					:環境の改善便益:ト~ :用水域の水質保全便為			つ環境価値の増	*		
			③公共用水域の水質保全便益:水質改善による公共用水域の環境価値の増大 ④その他の便益:評価期間経過以降の残存価値								
2											
再評			ĮΕ	具が	整備する処理場に	ついては 至	≧体計画4池	のうち3洲な	が整備	音みであり	大項目
評			県が整備する処理場については、全体計画4池のうち3池が整備済みであり、 大項目 8,400㎡/日の処理能力を有している。また、幹線管渠については、全延長 評 価								
価			6 7kmの整備が完了している。								
の			関連町における准件は沿け、東京20年度主の下北道敷港准件変が、田布族町6								
視			8.1%、平生町72.2%であり、今後も未整備区域の早期整備を図る。								
点	$\overline{}$		C C								
	3										
	=	=# 0\H+t-1-	【事業費の変化】 有 (無)								
	事業	事業の進捗と									
	ま の	今後の見通し									
	進										
	捗										
	199		「東業期間の変化」(有) 無								
			【事業期間の変化】(有)無								
			東米田門の延伸は、19年の八十東米乗の約2212 とり、東米米は1272 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 								
				事業期間の延伸は、近年の公共事業費の縮減により、事業進捗に遅れが生じていることから令和10年度としている。							
			דכי								
			<u> </u>								
	_			0	18 ±5/# 10 ± 1 ·	-1-+				///	
	4) つ 大 フ 替				場整備にあたって			を検討し、			大項目
		コスト縮減		管理費等のコスト縮減を図ることとする。							
		コヘド間波									
	コスト 縮替案等		1史月	使用など経済性、施工性を考慮し、コスト縮減に努めている。							
	た第		1	<u> </u>							
	Set O		中項目 B 山口県汚水処理施設整備構想において、下水道と代替案である個別処理 評 価								
		代 替 案		(会供処理条化構の設置)とを比較し、終済的である区域を下水道整備区							
	能		(合併処理浄化槽の設置)とを比較し、経済的である区域を下水道整備区域としていることから、現計画は妥当である。								
	性										
	2										
	3 環	配慮事項	洄	IJI,	海域の水質環境	を維持、改善	していくため	り、引き続き	5、処理	関場における適正	な運転
	^氓 境	30 思 尹 垻			努める。						
L	りて										
		∽ ≡ ⊭					≪≪	O #11			
		総合評価		•	継続	○ 見直し	ンが圧が冗	〇中止			
	事		Ī								
	業		ıE	県及び関連町が連携して整備促進を図り、施設の適切な維持管理に努めることにより、生活環境の改善及び公共用水域の水質保全に大きく寄与しているため、事業の継続は妥当であ							
4	実	評 価 理 由									
対	施	ᅋᄺᄺ	活境境の改善及び公共用水域の水質保主に入さく奇争しているだめ、事業の継続は妥当である。								
対応方	主		-	9 0							
一分	体		 								
亚丁	案										
	\cup	備考									
			i e								

田 布 施 川 流 域 下 水 道 田布施町 平生町流域関連公共下水道 計画図

